

評価者	教育部長	佐々木 聡
-----	------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

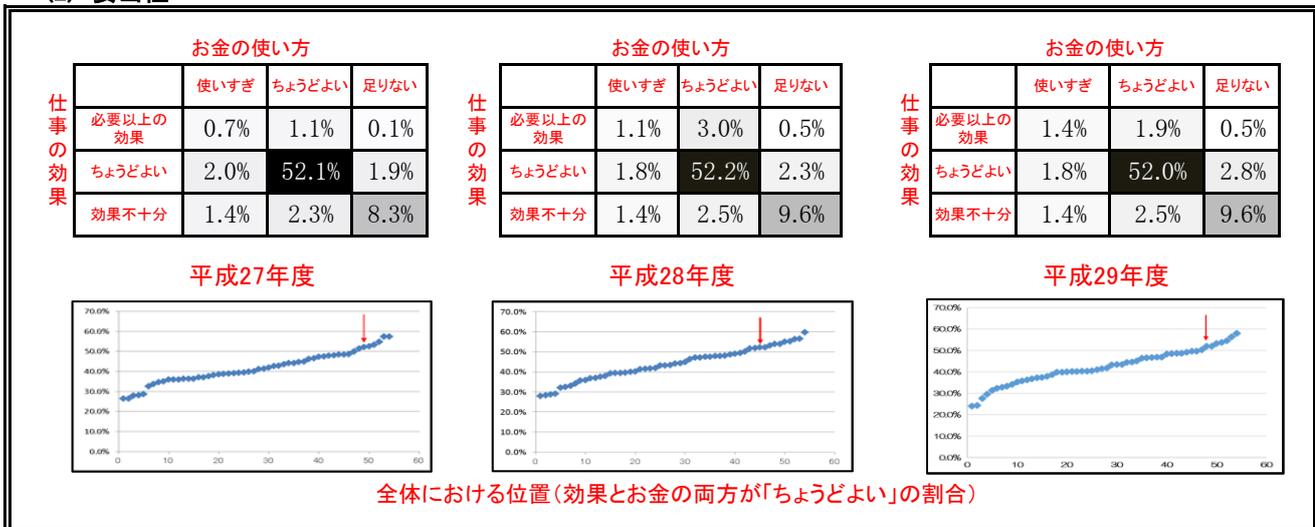
総合計画上の位置付け	分野	学校教育	施策の方針	安全・安心で開かれた学校づくり
目標とすべきまちの姿	児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送っています。家庭や地域社会が学校教育に求めるだけでなく、それぞれ本来の役割を担い児童生徒の育成を図っています。 また、学校・家庭・地域が協力して、すべての児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組が進んでいます。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	24.6%	平成28年度	21.0%	平成29年度	19.2%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成27年度	20.4%	52.9%	2.8%	23.9%
平成28年度	18.7%	53.8%	1.8%	25.8%
平成29年度	18.6%	49.6%	1.7%	30.0%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。(教育-01、02、14)
- ②学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。(教育-02、20)
- ③教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図り、適切な労働環境を確保するための具体的方策の検討を進める。(教育-20)
- ④引き続き事業を実施しつつ、法改正による対応やシステム導入などの検討、検証等を行い、事務改善に努める。(教育-22)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①学校に関わる様々な行政施策に対し、現場の状況把握に努め、学校へ警備員を配置するなど、学校環境の維持向上を図ることにより、児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組を進めることができる。(教育-01、02、14)
- ②学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。(教育-02、20)
- ③教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図ることで、子どもたちと向き合う時間を確保し、より教職員と子どもたちが信頼関係を構築し、楽しく活気ある学校生活を送ることができる。(教育-20)
- ④引き続き事業を実施しつつ、法改正による対応やシステム導入などの検討、検証等を行い、事務改善に努める。(教育-22)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
教育-01	教育委員会運営事業	6,149	6,001	15,176	16,137	1.2	1.3		b	B
教育-02	事務局運営事業	86,460	85,785	110,251	126,646	3.2	3.3		b	B
教育-14	学校安全対策事業	39,226	38,740	39,495	45,061	0.1	0.1		b	B
教育-20	教職員運営事業	10,132	9,874	25,618	34,584	2.0	3.0		a	A
教育-21	学校保健事務	59,168	59,668	70,689	70,596	1.4	1.0		a	B
教育-22	就学事務	771	861	8,733	6,791	1.0	0.7		a	B
教育-23	学校保険事務	12,421	11,766	13,340	13,480	0.2	0.2		a	B

(4) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>①教育行政の推進を図るため、教育委員会の会議を開催し審議した。(教育-01)</p> <p>①学校施設管理・学校給食調理業務等に支障を来さぬよう、非常勤嘱託員や臨時的任用職員を配置した。(教育-02)</p> <p>①小学校に学校警備員を配置し、児童等の安全確保を図るとともに、学校施設に係る機械警備を行った。(教育-14)</p> <p>②教職員の適正な人事配置を行うとともに、学校管理職としての資質の向上を図るため研修を行った。(教育-20)</p> <p>③教職員の負担軽減を図るため、鎌倉市学校職場環境改善検討会を設置し、「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を策定した。(教育-20)</p> <p>④児童生徒の健康の保持・増進を図るため、各種検診や保健指導などを実施した。(教育-21)</p> <p>④小中学校への就学決定等を行った。(教育-22)</p> <p>④学校管理下における児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金等の支出を行った。(教育-23)</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p>
--

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

①小学校への警備員配置は犯罪等に対する抑止効果の面で非常に有効な手段であるため、保護者及び教職員から評価を得ている。(教育-14)

①人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員の配置を行えた。(教育-02)

③鎌倉市学校職場環境改善検討会を設置し、「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を策定した。平成30年度以降は、教職員の負担軽減を図るため、多様な取り組みを行うことができる。(教育-20)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

<p>①教育委員会制度改革の趣旨に則り、関係機関との連携を強化し、より効率的な教育行政の推進を図っていく。(教育-01)</p> <p>①児童及び教職員の安全をより確実に確保するために県内市町村に先駆けて実施した小学校への警備員配置は、抑止効果の面で非常に有効な手段であることから、保護者及び教職員から高い評価を得ている。今後も引き続き事業を実施していく。(教育-14)</p> <p>②児童生徒が安心して学校生活が過ごせるよう継続して事業を実施していく。(教育-21)</p> <p>③教職員の多忙化を解消し、健康の増進を図ることで、子どもたちと向き合う時間の確保に努めたい。このため、策定した「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を実施していく。(教育-20)</p> <p>④引き続き事業を実施しつつ、法改正による対応やシステム導入などの検討、検証等を行い、事務改善に努める。(教育-22)</p>

(7) 平成30年度の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・学校に関わる様々な行政施策に対し、引き続き現場の状況把握に努め、学校環境の維持向上を図る。(教育-01、14) ・児童生徒の良好な教育環境を維持するため、引き続き学校や関係部局、家庭、地域と協力して児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりを進めていく。(教育-01、02、14) ・学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置を行うとともに、健康管理の支援に努めていく。また、「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を着実に推進することによって、教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図る。(教育-20)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

・学校に関わる様々な行政施策に対し、引き続き現場の状況把握に努め、家庭や地域と協力することで、児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組を進めることができる。(教育01、02、14)
 ・子どもたちが楽しく活気ある学校生活を送るためには、教職員の心身が健康である必要がある。このため、「鎌倉市学校職場環境改善プラン」を着実に推進することによって、教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図るとともに、子どもたちと向き合う時間を確保することができる。教職員が、子どもたちとしっかり向き合う時間を確保することによって、子どもたちの健やかな育ちにつながる。(教育-20)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-20	事業名	教職員運営事業										
指標の 内容	教職員の健康診断受診率						単位	%	指標の 傾向	↗	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
教職員が健康の保持増進に努めることは、子どもたちと活気ある学校生活を送るうえで重要である。	目標値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%						
	実績値	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	教育-20	事業名	教職員運営事業										
指標の 内容	教職員のメンタルヘルスチェック回答率						単位	%	指標の 傾向	↗	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
教職員の精神面の不調やストレスを解消することは、子どもたちと活気ある学校生活を送るうえで重要である。	目標値	100%	100%	100%	100%	100%	100%						
	実績値	96.0%	98.8%	98.8%	99.4%								
	達成率	96.0%	98.8%	98.8%	99.4%								
整理番号	教育-21	事業名	学校保健事務										
指標の 内容	鎌倉市立小中学校での定期健康診断の実施						単位	校	指標の 傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
学校保健安全法に定められた健康診断の実施	目標値	25	25	25	25	25	25						
	実績値	25	25	25	25								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								
整理番号	教育-21	事業名	学校保健事務										
指標の 内容	鎌倉市立小学校での就学時健康診断の実施						単位	校	指標の 傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31						
学校保健安全法に定められた健康診断の実施	目標値	16	16	16	16	16	16						
	実績値	16	16	16	16								
	達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・開かれた学校づくりはそこに通う児童生徒の保護者、教職員、教育委員会、行政の担当者だけで行われていること自体が「開かれていない学校」という結果をもたらしていないか。

・いじめ撲滅教職員がいじめのサインを見逃さないこと、子どもや保護者の訴えを真摯に受け止め、速やかに対応することが大切である。

・教職員の健康増進、精神的負荷の軽減なども重要である。

指摘への対応、コメント等

学校運営にあたっては、家庭や地域から非常に多くの協力を頂いています。今後は、すべての児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組を進めながら、学校運営に関わりの少ない地域の方にも理解いただけるよう、情報発信していきます。

いじめの未然防止や、いじめが起こった場合の対応方法について、児童生徒指導に関わる教員を集め、研修を実施しています。また、これまでの各学校の取組を検証し、改善や新規取組を実施します。引き続き、いじめを生まない環境づくりに取り組んでいきます。さらに生徒が主体となったスクールバディプロジェクトを継続します。

教職員の多忙化解消のため、平成30年3月に学校職場環境改善プランを策定しました。平成30年度は、このプランを着実に実行することによって、教職員の健康増進、精神的負荷の軽減に努めていきます。

・指標として「教職員の健康診断受診率」「教職員のメンタルヘルスチェック回答率」等を設定する事は否定しないが、設定理由が教職員のためだけのものになっている。「目指すべきまちの姿」として「児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送っています」とされていることから、教職員の心身が健康でなければ児童生と楽しく活気ある生活が送れないため、教職員の健康状態を確認する等の理由にして頂きたい。(必ず指標には「目指すべきまちの姿」または「施策の方針」から引用して頂きたい)

・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関と連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべき。

・会議の開催については、何を協議し、何を決定したのかを明記して頂きたい。



子どもたちが楽しく活気ある学校生活を送るためには、教職員の心身が健康である必要があります。教職員の多忙化を解消し、業務負担軽減を図るとともに、子どもたちと向き合う時間を確保することが必要であり、より子どもたちの健やかな育ちにつなげていきます。

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーについては、勤務日数を増加するとともに、関係機関と連携しつつ、さらに相談支援の質を高める取組を行います。

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に定められた会議で、では、年間約100件の議案審議や協議を行っています。会議録については、ホームページで公開しています。

提言

・小学校への警備員配置は引き続き行ってほしいが、これと機械警備やシステム導入との併用等は有効であると考えられる。

・「それぞれ」の「本来の役割」が何かを確認しあうことが急務である。そこがずれていなければ問題は縮小化される考える。

・「開かれた」と謳う以上、資格にこだわることなく、経験を考慮した市民の助けを持って、学校教育を行ってほしい。

・教職員の「心身の健康管理」に更に注力したい。

・児童生徒が安心して学校生活を過ごせる事が一番である。それには、学校、地域、家庭との連携を蜜に行ってほしい。

・法令による実施業務が多いとのことだが、鎌倉市ならではの事業に対する問題点や工夫点などはあるのか。その点についての洗い出しも行った上で取組を行ってほしい。



提言に対するコメント等(総論)

小中学校での機械警備については、実施済みです。小学校への警備員配置も継続していきます。子どもたちが楽しく活気ある学校生活を送るために、教職員の心身が健康である必要があります。教職員の多忙化を解消し、子どもたちと向き合う時間を確保し、子どもたちの健やかな育ちにつなげていきます。学校運営にあたっては、家庭や地域から非常に多くの協力を頂いています。今後とも、学校・家庭・地域が連携、協力して、子どもたちが安全に、また安心して過ごせる学校づくりの取組を進めていきます。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・小学校への警備員配置は犯罪等の抑止効果の面にて有効な手段として、保護者及び教職員から評価を得ている。
 - ・小学校への警備員配置は引き続き行ってほしいが、これと機械警備やシステム導入との併用等は有効であると考えられる。
 - ・人員確保を図り、業務に支障を来さぬよう非常勤嘱託員の配置を行えた。
 - ・学習環境の維持向上を図るため、教職員や学校職員の適正な人事配置につとめている。
- 「鎌倉市学校職場環境プラン」の具体的な内容は分からないが、計画が確実に達成可能な内容であり学習環境の向上に繋がるものであるのなら、まずは作成した事はよかったと思う。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→		7
効果	○	0	△	2	-	5	-

《課題》

- ・目標とすべきまちの姿と実施している事業の整合性が取れていないのではないかな。
- ・教職員の健康増進、精神的負荷の軽減なども重要。
- ・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関と連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべき。
- ・目標とすべきまちの姿にある「児童生徒が教職員や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活を送っています。」について、「楽しく活気ある学校生活」が送れていない児童生徒の現状をどの様に把握するのが課題である。
- ・目標とすべきまちの姿にある「児童生徒が教職員や友人と信頼関係を～」に関して、市がどのような事業を持って実現しようとしているのかイメージが湧かない。行政がどのように学校教育内部の人間関係に関わっていかようとしているのか、評価シートからは分からない。まずは職場環境の改善を含めた教職員の質の向上が急務かと思うが、その指標は、健康診断の受診率では測れないのではないかな。

《提言》

- ・学校はあくまでも子どもが主体である。教職員が主体ではない。全ての子どもが生き生きと学校生活を送れることを望む。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「学校・家庭・地域が協力して、すべての児童生徒が安心して過ごせる安全な学校づくりへの取組が進んでいます。」について、「安全」の定義を明確にして、定義が確実に確立されている事がわかる「指標」を設定すべき。
- ・「指標」の「教職員の健康診断受診率」について、受信した結果、職員の健康状態が良好であることが前提、100%受信しても、傷病率が高ければ意味が無い、「要再検査者」の率を減らす取り組みを行うべき。
- ・「指標」の「教職員のメンタルヘルスチェック回答率」について、何故「回答率」なのか？ストレスチェックにより把握したストレスの減少を目標・指標とすべき。
- ・「指標」の「鎌倉市立小中学校での定期健康診断の実施」について、何故「実施」なのか？健康診断により把握した傷病の減少を目標・指標とすべき。
- ・「指標」の「学校保健安全法に定められた健康診断の実施」について、法で定められているので100%で当たり前、定期健診で把握した健康障害の減少を目標・指標とすべき。